

平成 25 年度 第 1 回静岡市生涯学習推進審議会会議録

1. 日時 平成 25 年 8 月 2 日（金）14 時から 16 時 10 分まで
2. 会場 葵生涯学習センター 3 階 第 31 集会室
3. 出席者
 - 【委員】（50 音順・14 名）
 - 猿田委員、渋谷委員、菅野委員、磯山委員、池川委員、弓削委員、林委員、内野委員、青野委員、中野委員、杉井委員、飯塚委員、日野委員、吉田委員
 - 【事務局】
 - 生涯学習推進課：望月課長、川崎統括主幹、杉山主査、藤本主任主事、平出主事
 - 【オブザーバー】
 - 教育総務課：海野統括主幹、村上主査
4. 欠席者 川合委員
5. 傍聴者 1 名
6. 議題
 - 1 生涯学習推進大綱策定の概要
 - 2 現生涯学習推進大綱の成果と課題
 - 3 市民意識調査
 - 4 生涯学習推進大綱の策定スケジュール
7. 会議内容 下記のとおり

猿田議長

議案第 1 号「生涯学習推進大綱策定の概要」につきまして、事務局より説明をお願いします。

事務局

議案第 1 号「生涯学習推進大綱策定の概要」について説明。

猿田議長

ただいま事務局より生涯学習推進大綱策定の概要を説明いただきましたが、この件につきまして、何かご意見やご質問はございますか。

ある方は挙手をお願いします。

・・・挙手なし・・・

猿田議長

特にないようですので、議案第 2 号「現生涯学習推進大綱の成果と課題」について事務局より説明をお願いいたします。

事務局

議案第 2 号「現生涯学習推進大綱の成果と課題」について説明。

猿田議長

ただいま事務局より現生涯学習推進大綱の成果と課題をご説明いただきましたが、この件につきまして、何かご意見やご質問はございますか。

ある方は挙手をお願いします。

猿田議長

施設利用状況の推移で、折れ線グラフで稼働率というものがありますが、この算出には何か数式があるのでしょうか。

事務局

生涯学習施設の利用形態は、午前、午後、夜間の3コマになっており、そのうちの部屋の埋まっている割合を指したものが稼働率になっています。

猿田議長

開館日の午前、午後、夜間3区分での利用状況という事ですね。これは主催事業であろうが、貸室であろうが、カウントされているということですね。

事務局

はい。これはすべてを含めた利用状況です。

猿田議長

わかりました。

吉田委員

貸室の利用人数が140万人とかなり多いので、横串を指すというか、利用したいという人に対してわかりやすい全体的な情報の提供があると、もっと利用する人が増えてくるのではないのでしょうか。

現在は、たまたまチラシの掲示を見て興味のあるものに参加していますが、もう少し分野別にまとめるなど、理解しやすいような情報提供をしてもらえると良いかと思います。

弓削委員

利用されている人数が多く、色々な方が有効的に使われているのがわかりますが、その内訳はどういう感じなのか、年齢層、性別、使われている時間帯、そういうものの実績が把握できるようであれば知りたいと思いました。

事務局

データとしてまた皆様にお知らせしたいと思います。

弓削委員

今後の方向性の中で、ターゲットにしたい年齢層をどこに置くか、また全員ということであれば、どの層の方に来ていただきたいと思うか、そのような話ができるようになると

思うので是非お願いします。

猿田議長

今お話がありましたように、これまでの大綱は理想的には素晴らしく、それを継承していくのには非常に賛成ですが、確かに、目標の設定、評価計画、具体的な指標が少なく、良し悪しを判断するのがなかなか難しかったということがあります。今後どのような大綱にしていくかとも関わりますが、十分にターゲットを決めて策定していきたいと思いました。

それでは、議案第3号「市民意識調査」についてご説明をお願いします。

事務局

議案第3号「市民意識調査」について説明。

猿田議長

ただいま事務局より市民意識調査項目の説明があり、また、皆様にはアンケート調査の実施をしていただきましたが、この件につきまして、何かご意見やご質問はございますか。ある方は挙手をお願いします。

林委員

「生涯学習」と「生涯学習活動」という表現がされていますが、市民の方はこの見分けが難しいのではないのでしょうか。

事務局

一緒になってしまっているので、どちらかに統一いたします。

林委員

例えば、かがやき塾のように体系的に一人の方が色々な分野の活動をしている場合、いくつも丸をつけることになりませんが、その辺りはどうですか。

猿田議長

一つの活動でも複合的な内容を持っているケースが大半でしょうから、複数回答でお願いすることになると思います。そこまで配慮してお答えいただけるか、回答者によっては関連の深いものを一つだけ選ぶ形となり、違って来るかもしれません。

池川委員

資料3-1ですが、①は生涯学習の内容的なもの、②は満足度などを質問されている訳ですが、その前にそもそも生涯学習をする目的をまず聞くことで、これからどういうニーズがあるのかの一つのヒントになると思います。

猿田議長

今のご意見は、目的を聞く項目を先に入れた方が良いというご指摘でした。他にござい

ますか？

杉井委員

目標がどれほど達成されたかという質問がありますが、前にも同じような調査をしているのでしょうか。今回は初めての場合、現状はわかりますが、達成具合はわからないと思いますがどうでしょうか。

事務局

アンケート調査は初めてのことで、今は現状を把握するのが精一杯ですが、今後これを新しい生涯学習推進大綱の達成度合いを図っていけるようなものにしていきたいと考えております。

杉井委員

是非続けて同じような調査を定期的に行い、達成度を見ていって頂けるとありがたいです。

猿田議長

今度の大綱の進捗管理とも絡み、このアンケートを達成度の点検に生かしていくということでもあると思いました。

事務局

内閣府が何年かに一度、生涯学習の世論調査というものを行っています。そちらでは静岡市内の比較が出来る訳ではないのですが、国の全体の傾向が数値としてありますので、今回を1回目として、これと比較することで当面の課題を見つけられればと考えています。

弓削委員

今、内閣府の調査があるとお聞きしましたが、この質問項目というのは何か前例に乗っ取ったものなのでしょうか。

また、このアンケートの「市民3000人、16歳以上、郵送」という手法が一般的に情報を抽出する時に良いスタイルという裏付けがあるのでしょうか。

生涯学習で扱う年齢というのはどのように切り取るのが良いか。親子参加のプログラムがありますし、子どもの観点も重要だと思っています。また、障がいがある方にはこの手法で情報が集められるかということも気になりお尋ねしました。

事務局

この質問項目ですが、内閣府のものを元に、もう少し分かりやすい表現に変えて使用したものと、こちらで独自に作った項目がございます。

静岡市72万人の市民のうち1500人分のサンプルが取れると、一般的な標準偏差が描けると考えています。この調査は専門の調査会社と連携していくもので、数としては静岡市の平均が取れるのではないかと考えています。

子どもさんや、障がい者の方については、またヒアリングなり違う形での手法を考えて

いかなければと思います。

青野委員

自分がこのアンケートを回答する側として、生涯学習をどう捉えるかということですが、資料3の生涯学習の頻度について、週に1、2回など、どうやって数えるのかが曖昧になってしまうのではないのでしょうか。施設の利用頻度となれば数えやすいところですが。

猿田議長

例えば、語学学習のような個人学習が習慣になっている場合は生涯学習と認識せず、週に一度塾に通うことについてはカウントするという場合もあり曖昧ではありますが、質問用紙で調査を行う以上、今回は大きく傾向を掴むということでやむを得ない部分もあります。そういう中でも貴重なご指摘だと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

吉田委員

要望を書く欄がありますが、今回の項目以外の要望や、行政に対する要望といった全体的な意見をこの際に出していただいたら良いのではないのでしょうか。

事務局

自由記載欄を設ける形で対応していきたいと思います。

飯塚委員

市民意識調査2の1300人の根拠についてと、すでに学習施設を使われている方に対しての質問なのに、質問項目の中に生涯学習を行っていないという項目があり、違和感があります。

また、現在は高齢化社会ですので、施設利用の際の交通手段を聞く項目があっても良いと思います。

猿田議長

施設利用者への調査について、一人の方が複数回答を寄せる場合がありますが、その辺りの管理の仕方はどうでしょうか。

事務局

まず、1300人の数の根拠ですが、市街地の30施設に40部ずつと、山間部の5つの施設に20部ずつ配布します。調査1の無作為抽出3000人のアンケート回収率が1200～1500と予想されるので、その見込みの数に合わせて配布することが根拠となります。

配り方については、同じ方が何度も回答することのないように、日、コマを決めて配布をするつもりです。

内野委員

資料3-1、3-2に共通して言えることですが、「あなたは生涯学習で身につけたこと

を、仕事や地域活動に生かしたいと思いますか」の回答の仕方がよくわかりません。一つに丸を付けるとのことですが、仕事と地域活動両方に生かしたいという方もいらっしゃると思います。

事務局

検討します。ありがとうございます。

菅野委員

6ページの3-1⑫、3-2⑯が少し答えにくかったです。

技術的な問題でもありますが、1の家族や親戚とほとんど付き合いがないという人はあまりいないと思います。挨拶もして、世間話もして、困った時に助け合えるという場合、一番右の困った時に助け合えるという項目に丸を付けるという想定なのでしょうか。この趣旨がわからない回答者がいるのではないかと思います。

また、現在の大綱ではたすけあいの字を援けあうという字にしていますが、学習の中身を自分とか個人とか周囲だけでなく、どういう風に一つの繋がりの中で生かすのかというこの問いは、困った時に助け合えるとは少し違ったニュアンスで、「共に何かが出る、共に問題解決にあたる」という文面の方が良いのではないのでしょうか。もう一工夫の余地があるのではないかと思います。

猿田議長

なかなか難しい点ですが、またご参考にしていただきたいと思います。

磯山委員

資料3-1、3-2の⑤⑦で、(キ)生かしていない、と(ク)生かしたいとは思わないは2つあるが故に、(ク)の生かしたいとは思わないは明確に意味がわかりますが、(キ)では回答者が色々なシチュエーションを想定しやすいし、(ク)に含まれることもあると思うので、何を意図して聞くのかあらかじめ想定しておく必要があるのではないのでしょうか。

猿田議長

「生かしたいけれど生かしていない」、「生かしたくもないし、生かしていない」の区別をするということですね。

渋谷委員

先ほど抽出を行った場合のバランスのお話がありましたが、返却をする際に、すぐに答えて封書に入れて送って下さる方と、そのまま時間を置かれる方がいるかと思います。

また、年代別にバラつきのある返却率になってしまったような場合の想定や、分析表の工夫が必要ではないのでしょうか。

それから、私は様々なことをしているのですが、答えていくと色々な項目に当てはまり、それぞれにおいて違うメリットがあったりして回答が難しいと思いました。一番良く行っている活動について絞る必要があるかと思います。例えば、交通の便についても答えづらかったです。

中野委員

資料2の基本目標で、支援の援で助け合いとなっていました、ここではさすけるとなっているのには意味があつてのことでしょうか。

事務局

平成17年度に策定された大綱を見て頂くとわかりますが、あえてこの字にしてあります。本資料ではさすけあいではなく、たすけあいという意味になります。

日野委員

資料3-2にある居住形態についての質問の必要性はあるのでしょうか。居住年数の方が良いと思います。

事務局

居住形態についてですが、回答者の属性4~6の質問については、静岡市という地域にどの位定着された方なのかを図る指標をとりたいと思い、3項目を載せました。

猿田議長

全体の項目を見ていて、アンケートが滑らかに進まないという風にも感じられ、同じようなことを答えているのにまた出たりと、もう少し質問の整理ができる部分があると感じました。

本日、色々なご意見がありましたので、参考にしていただいて、是非良い調査を実施し、次の審議会でご提議いただきたいと思います。

それでは、議案がもうひとつございます。議案第4号「生涯学習推進大綱の策定スケジュール」について事務局より説明をお願いいたします。

事務局

議案第4号「生涯学習推進大綱の策定スケジュール」について説明。

猿田議長

何かご質問はございますか？

・・・質問なし・・・

よろしいようでしたら、これで本日の議案はすべて終了いたしました。本日は、色々なご意見を出していただきましたので、また事務局にはご検討いただき、今後のより良い審議につなげてほしいと思います。ご協力ありがとうございました。